

仙道呪符の由来 —— 現代科学と共存する古文化のなぞ

人間の力がまだそれほど強くなかったころには、不思議なことや、なかなか治らない病気などに出合ったとき、目に見えないものに頼ることが多くありました。そのような場合、決まって「神」の概念が用いられます。社会の未発達であるほど、このようなことがよく起こるのです。科学の発達につれて、人々の知識が豊かになり、世の中のできごとに対する理解や解決の能力が向上したため、いつの間にか、「神」の助けは入らなくなり、そして「神とは何か」ということについて考えるようになりました。人間の力がまだそれほど強くなかったころには、不思議なことや、なかなか治らない病気などに出合ったとき、目に見えないものに頼ることが多くありました。そのような場合、決まって「神」の概念が用いられます。社会の未発達であるほど、このようなことがよく起こるのです。科学の発達につれて、人々の知識が豊かになり、世の中のできごとに対する理解や解決の能力が向上したため、いつの間にか、「神」の助けは入らなくなり、そして「神とは何か」ということについて考えるようになりました。神は別の空間に生きている、と仮定することができます。確かに科学のおかげで、私たちはこれまで分からなかった様々なことを理解できるようになりました。宇宙にはいくつかの異なる空間が存在することも確認されています。これらの宇宙空間は、私たち人類が信じようと、信じまいと、ずっと昔から存在しているものです。そしてまた、別の空間にも生物が住んでいるはずですが、これを信じることは、決して迷信などではありません。そこで呪符が、私たちが別の空間とのコミュニケーションを行うための道具になります。心を集中して唱えたり、思い浮かべたりして、その空間にいる人々とやりとりをするわけです。心を集中すること自体が、一種のエネルギーです。集中すればするほど、エネルギーが強くなり、別の空間との情報交換も速やかにできるわけです。これと同時に、齋戒沐浴を行う人もいますが、それもせいぜい心を集中させるための助けにすぎません。心が高度に集中している人にとっては、齋戒沐浴の儀式などなくても、コミュニケーションがスムーズに行われるのです。コミュニケーションを通じて、我々は友達になりお互い助け合うこととなります。良い友達なら善いことで助けてくれるし、悪い友達なら悪知恵を貸してくれるでしょう。

科学的観点からみる呪符

私たちは、いきなり呪符のことを聞かされると、「本当にあるの?」「本当に効くのか?」と、まず、疑ってしまいます。確かに呪符は、私たちの受けてきた教育と正反対のものです。これまで私たちは、「知性」「理性」を生かして、すべてを理解することを教えられてきましたが、この呪符というものは、「知性」「理性」などとはかけ離れているのです。いわゆる「知性」「理性」といったものも、ある一定の条件下に限られたもので、この私たちの頭を縛りつけるような条件から解放されれば、宇宙の中に、私たちの知識だけではとうてい理解できないことが、たくさん存在していることが分かってくるはずですが、目に見えるものにしても、あるいは目に見えないものにしても。大きいものでは、太陽系の惑星や銀河系、ひいては、銀河系以外の宇宙。小さいものでは命の形成、DNA や RNA の構造。さらにはバビロニア、エジプトなどの古代遺跡、UFO、悪魔・・・、などなど。これらのなぞは、科学の発達した今日でも、まだまだ満足に説明されていないはずですが。私たちの持つ限られた知識だけで、この無限の宇宙について定義をすること自体が、ある意味では、一種の「迷信」ではないでしょうか。いずれにしても、呪符について、必要もない考えにこだわるよりも、これらのものを十分に生かして、私たちの生活のために役立たせてみたいものです。

呪符の使い方

呪符に向かって目を閉じ、心を静かにして呪文を唱えます。もし呪文を唱えないと、ガソリンを入れない車みたいに、効率が上がってくれません。呪文は声を出して唱えてもよいし、また、声に出さずに心の中で唱えても結構です。

【今回の健康呪符の呪文】

釈(スー) 省(サン) 暁(シャウ) 州(ゾウ)

